

論点のまとめ（第1回会議～第7回会議まで）

A：『職員の人事異動について』

…まちづくり分野などの「市民と信頼関係を築きながら進めていく部署」については、頻繁に人事異動をされると信頼関係が振り出しに戻ってしまう。人事ローテーション全体を変える必要はないが、このような部署には例外的な運用が必要。

B：『予算が無くても対応策を考える』

…市に相談等に行った際に「予算がありません」で話が終わってしまう場合がある。「予算はないが、このような方法はどうでしょう」というように前向きな対応を第一に考えることはできないか。

C：『行政の責任を放棄させない仕組み』

…本来は行政がやるべきことが、昔からの流れで住民に押し付けられているような状況。例としては、県等からの委託料を貰いながら行う高齢者主体の河川等の草刈作業や風雪等で道路上に倒れている樹木等の除去作業。これらの作業の見直しを始めとして、地域ごとに作る新たな会議体で、地域活動等で高齢者も若者も負担がかかり過ぎないように見直す仕組みを考える。

D：『市民が頑張ってくれる職員を応援、表彰できるような仕組み』

…職員に対して地域活動等の参加を義務付けると、逆に参加が減ることもある。自主的に頑張ってくれる職員を、市民が応援することができ、それが庁内の評価につながる仕組みができれば頑張ってくれる職員が更に増えることになるかもしれない。

E：『組織の横のつながり』

…市民が何かを提案・相談した時に、話を受けた課だけで判断してしまう。組織の横のつながりを考えていない。

F：『小規模集落をどのようにしていくか』

…旧町村部を中心に、高齢化率が高い。一定の率を超えたら行政が、地域の縁側事業みたいなことを考えてみるという手段もあるし、高齢化しているからこそ地域で頑張っていくような話し合いの場を作っていくのも大事。

G：『交流について』

…高齢化している地区でも地域の祭に福岡からも人を呼ぶことができたり、地元の小さな温泉にも福岡や北九州からも人が訪れており交流ができている。

H：『移動の権利、買い物の権利』

…高齢化が進むなかで、デマンドバスや市内循環バスをどのようにしていくか。また、地域の商店が無くなっていくなか買い物をどのようにしていくか。

I：『合意形成のあり方』

…学校関連でいえば教育委員会プラスPTAだけではなくて、地域の人達を巻き込むような議論の場をいかに作っていただけるのか、また、自治会の役員の人達の意向だけで物事を進めるのではなくて、もう少し幅広い意見を聞くような行政運営のあり方を。

J：『親と行政（学校）の責任のあり方』

…いざ何かをやろうとすると親が嫌がってやらないケースがある。何でも学校、行政のせいにするような構造をどうするのか。

K：『広瀬淡窓などの日田らしさ』

…条例に地域の個性を出すのであれば、「いろは歌」のような物事の考え方など入れてみるのはどうか。

L：『議員と市民との関係』

…議員に対して、市民が望んで地域の利益を優先するようにしているから、議員が市全体のことを考えていく余裕がなくなる。地域の声を行政が受け止められる仕組みをとってれば、個別のニーズに対して議員が動かなくても済むのでは。

M：『住民投票について』

…住民投票で物事を決めるとなった場合、重要な事柄となるわけだが、「どういう事柄であれば住民投票をするのか」。そのためには、住民投票後のビジョンがないといけない。

N：『コミュニティ関係の問題』

…高齢化が進んで困っているケースもあれば、そのなかでも、できる範囲のことをしながら楽しみながら生活をしているケースもある。また、地域コミュニティ内部の昔ながらの決まりごとなどで、時代に合っていないような、おかしいと思えるようなことでも変えにくいのが現状。それを変えていくきっかけとなるように、コミュニティに関する理念のようなものを条例に入れてはどうか。